

国際都市 東大生に刺激

キャンパス新発見



共同調査の成果を英語で発表する東大と香港大の合同チーム（8月、香港大）

アジア有数の名門校、

香港大学のキャンパスにこの夏、約20人の東大生が短期留学した。香港大の学生とともに、現地での聞き取りなどを通じ、日本と香港の経済・文化上の結びつきについて共同で調査。最後にその成果を英語で発表した。東京から飛行機でわずか約4時間にある国際都市が東大生に刺激を与えた。香港大の目指す実習強化の方向にも合っているようだ。

「スケジュールがきつくと、睡眠は毎日4〜5時間だったが、とても充実していた」。今回のプログラムで初めて海外に来

香港大 提携プログラム開始

たという2年生の衣松佳孝さんは、めまぐるしく過ぎ去った2週間を振り返った。

東大からの参加者は様々な学部にもたがっていったうえ、修士や博士課程の学生も加わった。キャンパス内での座学に加え、ヤクルト本社の工場や高級食材を扱う「シテイスーパー」の売り場などを精力的に取材した。日本の文化や食品、日本企業が香港でいかに浸透しているかを体感した。

香港大の学生にもいい刺激になったようだ。京都大学への留学から戻ったばかりの4年生、陸雯馨さんは「日本の学生が自国の未来のことを考えていることに感心した」と話していた。

今回のプログラムは両大学が今年結んだ全面的な提携に基づく第1弾。東大の園田茂人教授と香港大の中野嘉子准教授の連携で実現した。次回以降の予定は未定だが、学生による英語の発表を聞いた東大の江川雅子理事は「続けてほしい」と語っていた。

香港大は昨年の学制変更で4年制に移行したのに伴い、今回のような学外での「体験学習」を重視し始めている。昨春に「体験学習センター」を

新設する熱の入れようで、東大との交流はその有力なプログラムとなる。
(香港 川瀬憲司)
次回は「東京理科大学」です。